

養父市立大屋中学校

令和3年度 学校評価

(学校自己評価・学校関係者評価)

令和3年3月2日

1 本年度の学校教育目標

伸びよ 豊かに たくましく 大屋に学び、豊かな心で伸びやかに未来への道を切り拓こうとする活力の育成

2 本年度の学校重点目標

(1) ところ豊かで自立する人づくり (小中一貫教育の推進、地域連携の推進) (2) 「生きる」力を育む教育の推進 (確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成・特別支援教育の推進)
 (3) 教職員の資質能力の向上 (教職員の協働体制の確立、実践的指導力の向上、教職員の働き方改革の推進) (4) 安心、安全で魅力ある学校づくり (生徒指導の充実、人権教育の推進、安全教育の推進、コロナ禍の推進)

3 学校自己評価結果 (A 良好 B 概ね良好 C やや努力を要する D 一層の努力を要する)

分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方向
学校運営	開かれた学校づくり	概ね良好	・学校だよりは保護者版と地域版を作成し、学校での様子を保護者や地域に発信した。ホームページでも、生徒の活動の様子などを載せており、保護者の方だけでなく地域の方々にも学校の様子を知ってもらうことが概ねできている。 ・コロナ禍で、例年行われていた授業参観ができなかった。その中で、12月に50周年記念講演会に合わせて、授業参観を行えたことは成果であった。今後は、例年の取組に戻していきたい。 ・ナカバヤシの工場長さんや、大屋スキー場の専務さん等地域で活躍されている方の講演をひらくことができた。来年も継続して行いたい。
	危機管理体制の整備	概ね良好	・防災計画に従って避難訓練等を実施した。 ・年間2回の避難訓練を実施し、特に地震に対する危機意識を高める集会を行った。また、非常食用のご飯を、1.17に合わせて給食で食べる体験を行った。
	教職員の資質向上	概ね良好	・小中合同で夏季休業期間中に、道德の講師を招いて、講演会を行った。10月27日、3年担任が道德の授業研究を行い、小中学校で事後研と講師の講話を行い研修を深めた。 ・校内研修では、学期ごとに学年を割り当てて授業研究を行い、誰もが年間1回は指導案を作り授業を行った。 ・人権教育の研修会を行った。今後も継続したい。
	勤務時間の適正化	概ね良好	・「教職員定時退勤日」の完全実施が行われている。また、職員に強弱のある働き方をするよう意識改革を求めている。
	校種間連携 (小中一貫教育)	良好	・小中合同研修会を3回開催した。つながり部会と授業改善部会に分かれて研修を行った。つながり部会では、キャリアアンケートの作成を目指して、職員の意識調査に基づく、アンケートが完成来年度から実施予定。授業改善部会では、発達段階に応じた授業規律の確立や学習意欲を高める授業展開について研修を行った。
教科及び教科外の学習指導	基礎基本の定着と個に応じた指導	概ね良好	・一人一台のタブレットを有効活用するべく、教科等で効果的な活用方法を模索している。 ・指導形態を工夫しながら生徒の学力向上を目指した取組を行っている。T Tが有効なとき、同室複数が有効なとき、それぞれ場面を考慮して指導ができた。 ・3観点の評価について、評定との関係を明確にした。
	人権・道德教育の充実	概ね良好	・年間2回行った小中合同研修で、教員の資質向上を図り、ローテーション道德等で生徒の実践的指導力の向上を図った。
	読書活動の推進	やや努力を要する	・図書館開放、お話プレゼントなどで、読書活動の推進を図っているが、十分とは言えず、今後読書時間の増加等を図る手立てを考えている。例えば、図書紹介や読書タイムの新設など。
	キャリア教育の充実	概ね良好	・「キャリアノート」と「キャリアパスポート」の活用について、小中9カ年を見通した指導体制が整った。今後この体制を軸に、生徒に指導者が、より意識化されたキャリア形成を図っていく。
	情報教育	概ね良好	・「大屋中学校生徒会SNS利用の6か条」を見直し、昨年作成した、SNS・ゲーム使用の3本柱について意識調査や啓発活動を行った。 ・一人一台タブレットを活用して、欠席者に授業配信を行った。今後は、課題配布や学習の様子配信等、可能性を広げることができた。
	特別支援教育	概ね良好	・特別支援教育コーディネーターを中心に、一人一人の教育的ニーズに応じた個別の指導計画や個別の支援計画を作成し、それを基に特別支援教育の取り組みを進めた。 ・合理的配慮やユニバーサルデザイン等について、和田山特別支援学校の講師を招聘し講話を聞いたり、学期ごとに授業を参観してもらい指導助言を受けたりして、より効果的な指導方法を考え実践している。 ・通級指導により、対象の生徒のコミュニケーション能力の向上やソーシャルスキルの向上を図ることができた。
生徒指導・その他	あいさつ・掃除	良好	・縦割り班清掃により、3年生のリーダーシップが醸成されている。3学期に入りコロナ禍のため、3年生だけは特別に3階の清掃を行うこととしたことが残念ある。 ・生徒会の生活部会によるあいさつ向上の取組で、あいさつの声の意識ができた。
	いじめ防止	概ね良好	・毎月のいじめアンケートによる実態把握、生徒指導部会による各担任や関係の職員の見取りを通して、未然防止、早期対応に心がけている。 ・保護者と学校側との立場の違いが鮮明になることが多くあった。
	生徒理解	良好	・日々の「報連相共」による情報共有、毎日の職員打ち合わせによる情報交換、職員会議後に行われる生徒指導情報交換等により、十分な情報共有が図られ、生徒や保護者への対応に齟齬が起ることがないよう取り組めた。
	不登校	良好	・不登校生徒には、S C、S S W等の関わりを密にしながら、本人の現状把握をし養護教諭、学年職員と管理職で、機動的に対策を考えながら取り組んでいる。「やまびこの郷」へのアプローチも行っているが、実現していない。
	そうあんくんの日	一層の努力を要する	・「そうあんくんの日」に積極的に取り組み、生徒に自主的な家庭学習や読書を指導している。
	新型コロナウイルス感染症対策	良好	・学校行事実施の可否、行う場合の感染予防対策について慎重に検討を行い取り組んできた。 ・日常の学校生活の中でも、手指消毒、検温、黙食の給食、感染リスクが高いと思われる、学習活動等それぞれに、感染予防対策を行い実施したり、実施を見送ったりして取り組んだ。

4 総合的な学校関係者評価

コロナ禍で感染防止対策が2年目を経る中、学校が丸一となって参観日や体育祭、文化祭などの学校行事に取り組んできたことは評価できる。例年通りに行事が行えず、半日開催にしたり、来校者数の規制をかけたあたりでは延期をして時期をずらしたりしたことは理解できる判断であった。生徒数の減少が、学校運営に重大な影響を与えている様子が覗えるが、教職員の皆さんがの工夫や努力で生徒それぞれの力を伸ばす教育が進められている。そして、いじめや不登校にもきめ細やかに取り組み、登校しづりや不登校の生徒の解消に向けた取組も評価できる。生徒は、地域の住民に良くあいさつをしている、また、地区行事にも参加しており、生き生きとした姿を見せている。今後はコロナ禍の中でもさらに、学校が地域のコミュニティの場として、地域の人々が訪問しやすい行事の実施を工夫していただきたい。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の適切さ
○定期的に発行される「学校だより」やホームページでも毎日の生徒の様子がよくわかる。○地域との連携活動も、本年度50周年記念講演を、大屋町出身の実業家の方に依頼して、日程調整で当初の予定より1ヶ月遅れることになったが、実施できて良かった。また、その講演に触発されて、将来の職業をふさぐとする機運を作ったことも成果であった。地元のナカバヤシの工場長、大屋スキー場の専務に講演いただいたことも地域学習の成果であった。1年生は明延鉱山や神子畑運動場に見学に行き、実際現場で当時の様子を聞いたことも成果としてあげられる。○コロナ禍の中でも福祉体験学習で外部の人と交流したり、3日間であったが、トライやる・ウィークを行ったりして、生徒の大切な学習活動を絶やすことなく、実践できたことも成果であった。
○防災、防犯に対し、計画的に取り組まれている。9月に市内一斉で行われた防災訓練に、生徒が参加しやすい体制を作ったことも成果である。今後も継続して体制づくりをしてほしい。また、非常食の試食も、ユニークな取組で評価できる。
○職員構成を見ると、徐々に先生方の若返りが行われていることが分かる。若返ることで、ベテランの先生の教育技術が若手に伝わらないのではないかと危惧する。今後、教育技術の継承が課題になる。 ○校内での先生方の研修体制ができているということではあるが、今後も先生方の研修を継続して欲しい。
○教職員定時退勤日が完全実施されていることは評価できる。今後も継続して先生方の勤務時間の適正化に取り組んで欲しい。
○学校運営協議会が合同で行われていることに意味を感じている。今後も、この運営協議会のように、小中合同の取組を広く、児童生徒に教育効果が出るように取り組んで欲しい。 ○小中一貫教育で授業形態について、学習規律の統一などに返りに取り組んだと聞いた。さらに進めてもらいたい。道德の授業研修の合同実施も継続して欲しい。
○スクールG I G A構想で、1人1台のタブレットによる、基礎基本の定着に向けた取組が今後期待される。タブレットを持っていることでのメリットを学校としては最大限利用して、生徒の学力向上につなげて欲しい。 ○先生が複数で授業を教えることは、生徒への教育の効果が上がることだと考える。少人数、複数指導の授業形態はあると思うが、教育の効果が上がる形態をとりつつ、生徒の学力向上につながるように先生方の取組を期待する。
○人権を考えることは、社会の一員になるためには、とても大切なことである。中学校の時代に人権について正しい知識を伝え、知ることで、世の中からあらゆる人権侵害が消えることを強く願っている。
○読書の時間が、小、中学校とも少ないことは大きな課題である。様々な機会に読書ができる場を作ることや、本の情報を知る機会を増やし、読書の時間を増やす努力をしてほしい。
○地域のキャリアモデルになる講師を招いて、生徒に講演会を行っていることは評価できる。コロナ禍ではあるが、以前行っていた、ふるさと祭りへの参加や明延の円電車への取組など、今後復活したときは積極的に生徒の参加を促すようにしてほしい。
○リモートでの授業配信等、コロナ禍で非接触で行えることは効果的であると考えられる。しかし、便利なものだから、安易に使うのではなくしっかりとルールを遵守した使用を今後も啓発して欲しい。 ○コミュニケーションツールとしても利用できることは、今後の学習活動でも十分に活用できることと考える。よりリアルな学習ができるのではないかと期待している。 ○赤ちゃん教室をリモートで行った。今後も遠隔によるその道のプロとの交流が期待される。
○先生方が、特別支援教育を学ばれ、生徒に還元されていることが理解できた。今後も、生徒の個性に対応した教育の推進に期待する。また、進路を控えた生徒たちに、たくさんの選択肢があることを提示しよりよい進路選択を促せるようにしてほしい。 ○通級指導により、対象の生徒のコミュニケーション能力やソーシャルスキルの向上が見られて成果を出しているが、高校でも通級指導へと、今後も継続性を高め高校へつなげる取組を期待している。
○地域でも大きな声であいさつができています。学校では生徒会中心に取り組んでいるようなので、今後も継続して取り組んでもらえるようお願いする。
○今後も実態把握による、未然防止。早期対応をお願いしたい。 ○先生方は、生徒理解を進めていただき、生徒をよりよい方向に導いてほしい。
○毎月の生活アンケートの実施とその活用、日々の観察などの大切さを理解し、先生方ががんばっておられることが伝わってくる。
○担任の先生を中心に、不登校の生徒に関わっていただけていることが理解できた。難しいことであるかもしれないが、継続して生徒への関わりを大切にもらいたい。
○学年が進むにつれて、そうあんくんの日の取組が難しくなっているようだが、もっと家庭への周知を図り、家庭で協力をしてもらわないと浸透しないのではないかと。
○コロナウイルスの影響で教育現場の混乱があり、教職員の皆さんのご努力には敬意を申し上げます。学校行事が、先生方の努力で制約のある中様々な工夫により、行われたことに安堵しています。まだまだ出口は見えないが、より一層の努力をお願いしたい。